

政府の水俣病対策を検討

県議会
対策委

落されたドベの処理

予算獲得で陳情行なう

熊本県議会水俣病対策特別委員会は十八日午前十二時から県議会議員務務室でことし初の委員会をひらき、県議会から政府の新年度予算における水俣病対策について説明をきいたが、水俣病内のドベの処理について各省とも予算を計上していないため、同委員会は二十七日上京、関係各省に予算獲得の陳情を行なうことを決めた。

政府の水俣病対策予算について県当局から●水俣町では近海出漁と真珠母貝養殖の補助金として九百六十八万円、原因究明調査費に三百十七万円を計上している。原因究明については本月下旬、松江東大教授、富山九大教授および水産庁係官が来県、地元から熊本大、対馬海城の養いか釣りに出漁中の漁船はいま六十二隻だが、さらに近く千一隻が出漁する●経済企

画序では水俣保全費として五百七十六万円を計上した旨、十八日東京事務所から県に連絡があつた●厚生省では熊本への研究委託費として百四万円、患者治療研究費として千二百八十五万六千六千円、患者診査委員会費に八万七千円をそれぞれ計上している。これまでに患者治療費は十八八分、単価は一人当たり月額一万六千円だったが、こんどから二万九千三百円になったと説明があつた。

しかし水俣病対策の今後の最大の問題である水俣湾内のドベの処理については各省とも予算を計上しておらず、またこの問題に対する県の窓口も決まってい

ぬいことから、委員会では県に窓口を早くつくるよう強く要望するとともに、二十七日上京して各省に陳情することになったもの。